

第3 問題作成部会の見解

日本史 A

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 学習指導要領2(2)のうち、ア(7)「文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容」に着目して「近代国家が形成される過程」について、イ(7)「都市や村落の生活の変化と社会問題の発生」に着目して「国民生活の変化」について、イ(4)「アジア近隣諸国との関係に着目して、二つの世界大戦とその間の内外情勢の変化」を問うたほか、ウの「具体的な歴史的事象と関連させた適切な主題」として、「近現代の水道と下水道の歴史」というテーマを設定したリード文を掲げ、関連する近現代日本史の基本的事項を問うことをねらいとした。「私たちが現在享受している生活基盤の成り立ちに目を向ける好機をもたらしてくれる」という高い評価を得た。

問1 幕末開港に関する基本知識と、植民地・衛生分野の人名に関する知識を問うた。難易度については、「より基本的な語句や文を選ばせても良かったであろう」という評価を得た。

問2 明治期の衛生と伝染病に関連する知識を問うた。「伝染病・感染症に関わる歴史は今日的な関心とともに学ばせたい」という評価を得た。

問3 明治初期の地方制度の基本的知識と、水道条例制定時の議論を同時代の社会・政治の変化のなかで理解できるかを、史料と習得した知識を活用して考察できるかを問うた。「受験者の関心・理解を高めにくい法制史への日ごろの学習」を喚起する設問という評価を得た。

問4 朝鮮における水道普及率・赤痢患者数などの数値表と、当時の衛生状況を示す文献史料を題材に、植民地における衛生・医療に関する理解と、歴史的思考のための適切な史料の読解と批判ができるかとの意味における思考力・判断力・表現力等を問うた。史料や表について「丁寧に読み、判断する力が求められた」という評価を得た。

問5 戦時下の日本社会の基本的知識について、疏水環境と水利用に関する同時代の政治・社会に関する史料を理解し、適切な解釈と考察ができるかを問うた。受験者に関心を持たせる出題で、史資料の読み取りは容易で答えやすかったであろうという評価を受けた。

問6 敗戦から高度経済成長期の農村の変化に関する基本的知識を、時代的变化との関わりを踏まえて理解できているかを問うた。「農業に関する課題の過程を正確に理解できているかが問われた」が、「Ⅰ～Ⅲの文はどれも時期を特定する用語・事項を含み、取り扱っている時期の範囲も適切」と評価された。

問7 大正期から戦時期までの都市をテーマに、当時の人々の生活や意識の変化についての基

本的知識を問うた。「都市の発展や社会情勢を正確に理解できているかが問われ」るが、「選択肢の内容はどれも基礎的事項で解答は容易であろう」と評価された。

第2問 学習指導要領2(2)アの「近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出、文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容（中略）に着目して、開国から明治維新を経て近代国家が形成される過程について考察させる」を踏まえ、博物館で開催された「パスポートの歴史」展の展示資料やその解説文に関する出題を行った。パスポートの歴史をテーマとしつつ、政治史・社会経済史・外交史・文化史など多岐にわたる出題を心掛けた。なお、本問は「日本史B」第5問との共通問題である。

問1 1867年のパリ万国博覧会に関する二人の人物を取り上げ、文化・政治・外交に関する知識・理解を問うた。「基本的な内容で易しい」と評価された。

問2 船舶や海運と関わりのある明治期の著名な歴史的事象を提示し、それらの時系列を類推する力を問うた。一見すると無関係にも思われる諸事象を、思考力・判断力・表現力等によって時系列的に並び替えさせる意図で出題した。

問3 パスポートの図を提示し、それと関連させつつ、明治期の政治的な仕組みに対する理解を問うた。特にY文については「史料から読み取れる情報が多岐にわたることを示す」設問であったと評価された。

問4 下関条約などの外交史料を提示し、その読み取りから、1890年代の日本における植民地統治の特質を問うた。特にa文・b文については「史料の意味を理解できなければ判断できない文章で、この設問も語句の拾い読みでは解答できないように工夫されている」との評価を受けた。

第3問 学習指導要領2(2)ア「自由民権運動と立憲体制の成立に着目して、（中略）近代国家が形成される過程について考察させる」に関して、中江兆民の事績に関連付けて出題した。また学習指導要領2(2)ア(イ)「政党の役割と社会的な基盤に着目して、国際環境や政党政治の推移について考察させる」に関して、原敬の事績に関連付けて出題した。日本の内政と外交に関わる様々な史資料の読み取りを通じて、学習指導要領2(1)にいう「歴史への関心を高め、歴史を学ぶ意義に気付かせる」という観点を意識させることを目標としている。本問については、「明治期の思想・言論や政治・社会運動、明治から昭和初期にかけての外交・政治の動向など多くの受験者が学習の中心とする分野の出題が並び、かつ標準的な内容が多く、取組みやすかった」とであろうと評価された。

問1 啓蒙思想の広がりや藩閥政府の対応について、文化の側面と法規の側面から問う問題。「解答は容易である」と評価された。

問2 自由民権運動期における諸事項について、正確な理解の上に、時代順に並べることができかを問う問題。「運動の流れを理解していれば迷わず答えられる平易な良問」と評価された。

問3 史料を読み取り、分析し、社会思想史及び政治史の知識と結びつけて考察する力を問う問題。「啓蒙思想家の執筆文の読み取り内容と知識とを組み合わせ思考させる良問」と評価された。

問4 清、朝鮮、日本をめぐる東アジア情勢について、基礎的な知識を基に判断する力を問う問題。「当時の朝鮮問題への基礎理解があれば問題なく解答できる」と評価された。

問5 史料を読み取り、分析し、基本的な事項をもとに、政党政治の確立について考察する力を問う問題。史料をとおして「重要人物の考えや関係性への関心を高めるきっかけともなると評価された。

- 問6 第一次世界大戦期を中心に、政党政治下で取られた政策の転換・推移を考察する力を問うた。「事柄の正確な理解が求められ」る問題という評価を得た。
- 問7 立憲政友会を中心に、正確な知識と関連づけて、政党政治の変容について考察する力を問う問題。各内閣についての「総合的理解があれば容易に解答できる」と評価された。
- 第4問 学習指導要領2(2)ウの「産業と生活、国際情勢と国民、地域社会の変化などについて、具体的な歴史的事象と関連させた適切な主題」、及び同2(3)ウの「近現代の歴史にかかわる身の回りの社会的事象と関連させた適切な主題」として、「日本の漁業と国際関係」をテーマに掲げた。近現代日本における漁業の展開について、史料やグラフを豊富に用いた設問とし、出題形式もバラエティに富むよう心掛けた。
- 問1 史料に基づいて、ロシア沿岸の漁獲量に関するグラフに示された数量的変化の要因について問うた。「複数の種類の資料を活用した思考が求められる良問である」と高く評価された。
- 問2 食生活には欠かせない保存技術が見られる作品を取り上げ、その背景となる作品がつけられた時代の状況との関係を理解できているかを問うた。「文の内容から時期を想起し、判断する必要があった。明治期から昭和初期の社会背景についての正確な理解が求められた」と評価された。
- 問3 戦間期の日米をとりまく国際関係上の協調と対立を時系列で理解できているかを問うた。「当時の日米関係の推移を正確に理解できているかが問われた」と評価された。
- 問4 史料を用いて、漁業や漁場をめぐる日本政府の中国への対応についての理解を問うた。史料中の文の「主語が何(誰)であるか、といったことを意識して意味を正確に把握しなければ判断できない良問」と高く評価された。
- 問5 戦後日本の海洋進出の前提となった国際社会への復帰や近隣諸国との国交樹立を、冷戦構造を踏まえて理解できているかを問うた。
- 問6 戦後の漁業の外洋化を促すきっかけとなった工業成長及びそれと表裏の関係にある公害についての理解を問うた。「高度経済成長の特徴やひずみを正確に理解できているかが問われた」と評価された。
- 問7 戦後の経済状況や食生活の変化に対する理解及び魚介類の消費量・自給率について示したグラフの読解を問うた。「いずれの選択肢も、歴史用語をできるだけ用いないようにしつつ、日本史学習の成果を引き出せるかを問うように工夫して作られている」と高く評価された。
- 第5問 学習指導要領2(2)のうち、ア(7)「文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容」、イ(7)「都市や村落の生活の変化と社会問題の発生」の内容を踏まえ、「社会や文化の変容」及び「立憲体制の成立」に着目してリード文A～Cを配した。Aでは学習指導要領2(2)ア(7)に定める「文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸改革に伴う社会や文化の変容」に関する理解を問うため、家族制度や明治民法についてのテーマを設定した。Bではイ(7)「都市や村落の生活の変化と社会問題の発生」に関する理解を問うため、女性解放運動についてのテーマを設定した。Cではイ(4)「国内の経済・社会の動向」に関する理解を問うため、戦前・戦後の市川房枝と大政翼賛会についてのテーマを設定した。
- 問1 明治期の啓蒙雑誌と自由民権運動家についての知識を問う問題。「語句の組合せを選ぶ問題であり、平易な内容である」と評価された。
- 問2 明治期の家族制度に関する基本的知識と議論を同時代の社会・政治の変化のなかで理解しているかを問う問題。Y文は平易な内容、X文は注意深く史料を読むことに力点を置いた

問題と評価された。

問3 明治期から大正期の社会の変化に関する基本的知識を、時代的变化との関わりを踏まえて理解できているかを問う問題。社会主義、労働運動の展開を理解できていれば正答を導ける問題と評価された。

問4 社会・政治の変化を踏まえて、大正期の日本社会の基本的知識と、治安警察法改正の請願に関する史料を理解できるかを問う問題。「新婦人協会の思想と影響について、史料を丁寧に読み解く力と正確な理解」を求める問題と評価された。

問5 昭和期の日本社会の基本的知識と、新体制運動と女性との関わりに関する史料を同時代の社会・政治の変化のなかで理解しているかを問う問題。「史料を丁寧に読み解く力と新体制運動の特徴についての正確な理解」を求める問題と評価された。

問6 敗戦後の女性の社会的地位の改善に関する基本的知識を問う問題。「人物や事柄の正確な理解が求められ」る問題、「平易である」と評価された。

問7 これまでの会話文を踏まえて、女性の社会的位置づけとその変化の歴史に関する総合的理解を問う問題。「女性の地位向上をめぐる正文選択問題で、平易な良問である」と評価された。

3 出題に対する反響・意見等についての見解

高校教員からは、「基本的事項の正確な理解や思考力・判断力・表現力等を重視する学習指導要領の指針に合致するもので、受験者の培ってきた力や理解を評価するのにふさわしい問題であった」との評価を得た。また高等学校の現場で「従来の知識偏重になりがちであった指導から、史資料から読み取った情報を知識と関連付けて論理的に活用する等、思考力・判断力・表現力等を育成する指導への転換」が「図られている」中で、今回の出題は、「昨年度以上にそのような資質・能力と、大学入試で問われる資質・能力の整合性が明確に示されるものであった」とも評価していただいた。ただし、「リード文を含めた大問全ての情報を読み取り、総合的に判断する」出題も期待されるとのことで、次年度に向けて検討していきたい。

教育研究団体からは、「衛生・医療や海外渡航（パスポート）、漁業、女性の社会的地位の向上といった今日における社会的課題に関わる出題も多く」、「各問のメッセージ性が受験者の関心をどれほど喚起し、試験に意欲的に取組ませることにつながったか、興味深い」との見解が寄せられた。

「史資料については、政府や植民地統治機関などの公的文書・法令・統計が多く、新聞記事、論考、請願、日記も取り上げられ」、「的確かつ良質でわかりやすいものがよく精選されており、出題への工夫が感じられる」との評価を得た。ただし、「教材や日常の学習指導にあたって取り扱いに差異が生じると想定される事項の出題」については、今後も引き続き出題内容の精査を行っていきたい。

4 まとめ

本学会は従来からの作問上の留意点として以下の4点を挙げてきた。

- (1) 高等学校教育の範囲と水準を逸脱することなく、標準的な問題を作成するように心掛ける。
- (2) 高校現場での授業に配慮する。
- (3) 問題領域や設問形式のバランスや文字資料・図版資料・地図・表・グラフの適切な使用に留意しつつ、「歴史的思考力」を問う問題をより多く出題するような工夫をする。
- (4) 「日本史B」との共通問題について、難易度に一層配慮する。

今回までの共通テストでの知見の蓄積を活用し、ご指摘いただいたことも踏まえ、引き続き問題作成を行っていきたい。

日本史 B

1 出題教科・科目の問題作成の方針（再掲）

- 歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視する。用語などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連等について、総合的に考察する力を求める。問題の作成に当たっては、事象に関する深い理解に基づいて、例えば、教科書等で扱われていない初見の資料であっても、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連付ける問題、仮説を立て、資料に基づいて根拠を示したり、検証したりする問題や、歴史の展開を考察したり、時代や地域を超えて特定のテーマについて考察したりする問題などを含めて検討する。

2 各問題の出題意図と解答結果

第1問 全体のテーマは、学習指導要領日本史B冒頭の「目標」に「我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う」とあること、また「内容」(1)アの「様々な歴史資料の特性に着目し、資料に基づいて歴史が叙述されていることなど歴史を考察する基本的な方法を理解させ、歴史への関心を高め」、(2)アの「歴史資料を含む諸資料を活用して、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係を考察するなどの活動を通して、歴史の展開における諸事象の意味や意義を解釈させる」とあることを踏まえ、教科書や紙幣に採用された肖像という絵画資料を通して、日本史や日本文化の理解と思考力・判断力・表現力等を具体的に問う設問を用意した。場面設定は、自由研究を進める高校生が行った作業としてデータや資料を提示し、歴史的事象を身近な問題として主体的、批判的に考察する姿勢の形成を促すことを意識した。

問1 小学校教科書に掲載された肖像の特徴を読み取り、それに関わる歴史上の人物についての理解を問う問題。暗記ではない学習方法に則した問題として評価された。

問2 古代から近代までの絵画作品に関する知識と思考力・判断力・表現力等を問う問題。単なる文章による年代整序問題ではなく、絵画作品から判断するよう工夫したことにより、時代の特徴を理解しているかを問う問題として評価された。

問3 外国人の来航に関する地図上の理解と思考力・判断力・表現力等を問う問題。X・Yの人物が誰かを特定した上で、その人物の上陸地点との来航ルートを選択させる問題で、単なる知識のみではなく、思考力・判断力・表現力等が問われる問題として評価された。

問4 肖像画の像主を確かめる際に、どのような考察方法を用いることが有効なのかを考えさせる問題。「知識だけでなく、課題解決力も今後の日本史学習で身につけるべき能力である」というメッセージであろう」と、課題解決力を問う問題として評価された。

問5 二つの天皇の肖像画を対比させながら、図像に描かれていることを手掛かりに、読み取れるイメージと図像の意味を読み解く問題。資料を使った日本史学習方法を求める問題として評価された。

問6 紙幣肖像に採用される人物の特徴とその時代的背景について考察させる問題。平安時代以前に実在した人物の初登場がいずれも戦前であることに気付かせながら、近代の社会状況、時代的特徴について考察させる問題と評価された。

第2問 学習指導要領2(1)「原始・古代の日本と東アジア」を踏まえて出題した。ア「資料に基づいて歴史が叙述されていることなど歴史を考察する基本的な方法を理解させ」ること、3(1)

エ「各時代の文化とそれを生み出した時代的背景との関連，外来の文化などとの接触や交流による文化の変容や発展の過程などに着目させ」ることを意図し，奈良時代から平安時代にかけての仏教信仰・文化と社会のかかわり・時代ごとの変化について，古代日本の基本的事項に関する知識を踏まえて思考力・判断力・表現力等を問うことをねらいとした。

問1 天平文化に属する作品に関する問題。製作技法や国際的背景に関する理解を問い，「表面的な用語の暗記学習では得点できないように工夫されている」と評価された。

問2 奈良時代を代表する僧侶である行基の活動について問うた。「仏教信仰を背景にもつ奈良時代の社会事業に関する正確な知識が求められ」と評価された。

問3 古代の都城に関する史料を時系列に沿って配列する問題。「宮・都や年代を判断する思考力・判断力・表現力等と，宮・都の変遷に関する正確な知識と理解が求められ」と評価された。

問4 空海についての史料の読解を通して，平安新仏教の特色を考察する力を問うた。「注釈を活用し，主語や時系列に留意しながら史料を丁寧に読解する技能が求められ」る設問と評価された。

問5 全体のまとめとして，古代の仏教と社会との関係について問うた。「奈良時代から平安時代までの仏教に関して基本的な知識と理解が求められ」る設問で，適切な難易度と評価された。

第3問 学習指導要領1目標に示された「我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察」を意識するなか，「2内容」の「(2)中世の日本と東アジア」に示された「歴史資料を含む諸資料を活用して，歴史的現象の推移や変化，相互の因果関係を考察する」及び「武士の土地支配」・「中世社会の多様な展開，文化の特色とその成立の背景について考察させる」に則り，史料の読解に重きを置きつつ，主に土地制度や荘園制度に注目しながら，各時代の政治・社会・文化についての理解を問うた。「中世の人々の暮らしと考え方について研究発表することになった高校生二人の会話を基に，中世の土地制度史と，それに関連する政治史・文化史などの諸分野について問う問題」と評価された。

問1 後三条天皇が作成した柘の名称，神仏習合における神と仏の関係などについて理解しているかを問うた。

問2 延久の荘園整理令の目的や影響に関する理解を問うた。「延久の荘園整理令に関する正誤問題で基本的な内容である」と評価された。

問3 中世の武家権力による土地制度に関する政策について提示し，そのおおよその時代順を理解しているかを問うた。「具体的な用語をなるべく避けた記述を工夫」した「良問」と評価された。

問4(1) 中世社会で使われていた柘の容量に関する表と，荘園年貢の収納に関する史料1・2の読解を通じて，荘園制度における荘園領主と荘官との関係や，中世の量制・土地制度について読み取り，理解しているかを問うた。「非常に興味深い題材を扱った設問」と評価された。

問4(2) 問4(1)で提示した表及び史料1・2に加え，荘官と百姓等との対立の要因に関する史料3を提示し，中世に多様な柘が使用された背景と，中世民衆の主体的な動向の特徴について読み取れるか，また当時の社会状況について理解しているかを問うた。「史資料を丁寧に読み取った上で，中世の在地社会のあり方に関して総合的に考察する力が求められた」と評価された。

第4問 学習指導要領2(3)「近世国家と社会や文化の特色について，国際環境と関連付けて考察させる」ことを踏まえた問題である。その中でも特に「近世の都市や農山漁村における生活や

文化の特色とその成立の背景」を考察させるため、当該期の代表的な文芸作品を取り上げた。史料から読み取った情報や習得した知識を活用し、歴史的事象の背景・原因・影響を探り、近世日本の基本的事項に関する知識と思考力・判断力・表現力等を問うことを意図した。「江戸時代の政治・外交史，社会経済史及び文化史などについて問う問題」という評価を得た。

問1 近世の経済・政治・対外関係に関する基本的な知識・理解を問う問題である。「江戸時代に関して幅広い時期・分野の知識を問う正誤問題で、標準的な難易度である」と評価された。

問2 近世の民衆運動や口承文芸・芸能に関する知識・理解を問う問題である。特に、選択肢Yについて、「文化史に関する理解を問う良問」と評価された。

問3 江戸幕府の思想・出版統制についての知識・理解を踏まえ、それらの歴史的事象を時系列で把握する問題である。

問4 近世の文化に関する基本的な知識を問うとともに、史料を読解して、文芸作品が実在の人物である誰を暗示しているかを考察する、思考力・判断力・表現力等を問うことを意図した問題である。「文化史を政治史と関連づけて時期を意識した学習が求められる設問」と評価された。

問5 文芸作品の評判を記した史料を読解する技能を問うとともに、それらの史料から読み取った情報を基に、近世後期の政治・経済状況について考察させる問題である。

第5問 学習指導要領2(4)アの「開国と幕府の滅亡，文明開化など欧米の文化・思想の影響や国際環境の変化（中略）に着目して，明治維新以降の我が国の近代化の推進過程について考察させる」を踏まえ，博物館で開催された「パスポートの歴史」展の展示資料やその解説文に関する出題を行った。パスポートの歴史をテーマとしつつ，政治史・社会経済史・外交史・文化史など多岐にわたる出題を心掛けた。なお，本問は「日本史A」第2問との共通問題である。

問1 1867年のパリ万国博覧会に関する二人の人物を取り上げ，文化・政治・外交に関する知識・理解を問うた。「江戸時代の人物に関する基本的な内容を問う設問で易しい」と評価された。

問2 船舶や海運と関わりのある明治期の著名な歴史的事象を提示し，それらの時系列を類推する力を問うた。

問3 パスポートの図を提示し，それと関連させつつ，明治期の政治的な仕組みに対する理解を問うた。「史料から読み取れる情報が多岐にわたることを受験者に意識させる設問」と評価された。

問4 下関条約などの外交史料を提示し，その読み取りから，1890年代の日本における植民地統治の特質を問うた。「語句の拾い読みでは解答できないように工夫されている」との評価を受けた。

第6問 学習指導要領2(4)ウの「国民生活の向上と社会問題の発生（中略）に着目して，近代産業の発展の経緯や近代文化の特色とその成立の背景について考察させる」，2(6)アの「占領政策と諸改革，新憲法の成立，平和条約と独立，国際交流や国際貢献の拡大などに着目して，我が国の再出発及びその後の政治や対外関係の推移について考察させる」及びイの「戦後の経済復興，高度経済成長と科学技術の発展，経済の国際化，生活意識や価値観の変化などに着目して，日本経済の発展と国民生活の変化について考察させる」を踏まえ，「日本の漁業と国際関係」をテーマに掲げた。出題形式もバラエティに富むよう心掛けた。「現代の諸課題を考える視点をもつことにつながるという示唆に富んだ問題であった」と高く評価された。

問1 史料に基づいて，ロシア沿岸の漁獲量に関するグラフに示された数量的変化の要因について，どのような仮説があり得るのかを問うた。「史料の内容に基づいたグラフの読み取り問

題で、複数の種類の資料を活用した思考が求められる良問である」と高く評価された。

問2 食生活には欠かせない保存技術が見られる作品を取り上げ、その背景となる作品がつけられた時代の状況との関係を理解できているかを問うた。

問3 戦間期の日米をとりまく国際関係上の協調と対立を時系列で理解できているかを問うた。「第一次世界大戦期以降の日米関係の推移について基本的な知識が求められた」と評価された。

問4 史料を用いて、漁業や漁場をめぐる日本政府の中国への対応についての理解を問うた。「主語が何(誰)であるか、といったことを意識して意味を正確に把握しなければ判断できない良問である」と高く評価された。

問5 戦後日本の海洋進出の前提となった国際社会への復帰や近隣諸国との国交樹立を、冷戦構造を踏まえて理解できているかを問うた。

問6 戦後の漁業の外洋化を促すきっかけとなった工業成長及びそれと表裏の関係にある公害についての理解を問うた。

問7 戦後の経済状況や食生活の変化に対する理解及び魚介類の消費量・自給率について示したグラフの読解を問うた。「いずれの選択肢も、歴史用語をできるだけ用いないようにしつつ、日本史学習の成果を引き出せるかを問うように工夫して作られている」と高く評価された。

3 出題に対する反響・意見等についての見解

高校教員からは、出題分野について、「政治史、社会・経済史、文化史、外交史といった諸分野が横断的かつバランスよく出題されていた」との評価を得た。「絵画や人物の肖像画、地図、初見の文字史料、近代の旅券の実物、統計資料など、多種多様な史資料からの読み取りや考察が多く出題されたため、丁寧に史資料の読解に取り組む必要はあるが、リード文や会話文などが簡潔であり、かつ史資料の分量も適量なので、試験時間と問題数に鑑みればおおむね適切な分量」であった、とも評価していただいた。また問題の程度については、「学習指導要領が求める資質・能力に適合しており、歴史的な背景や意義まで含めた体系的な内容の理解を問う問題や、史資料の読解を通じて思考力・判断力・表現力等を測る問題がバランスよく配置され、おおむね適正であった」との評価を得た。一方で、大問内における一つの時代区分の中での分野のバランスにも留意することとしていきたい。

教育研究団体からは、「昨年度の追・再試験では、統計データの読み取りがなく、大部分が史料読解であった」が、「今年度は史料だけでなく、表やグラフ、絵画など、多様な資料も活用されていた」点を評価していただいた。出題分野についても「バランスが良い出題で、難易度も全体的には標準的であった」との評価を得た。また、「知識を全く求められない、日本史を全く学習していなくても解答可能な設問も今年度はほぼ見られなかった」との評価も得た。

4 ま と め

本学会は従来からの作問上の留意点として以下の4点を挙げてきた。

- (1) 高等学校教育の範囲と水準を逸脱することなく、標準的な問題を作成するように心掛ける。
- (2) 高校現場での授業に配慮する。
- (3) 問題領域や設問形式のバランスや文字資料・図版資料・地図・表・グラフの適切な使用に留意しつつ、「歴史的思考力」を問う問題をより多く出題するような工夫をする。
- (4) 「日本史A」との共通問題について、難易度に一層配慮する。

今回までの共通テストでの知見の蓄積を活用し、ご指摘いただいたことも踏まえ、引き続き問題作成を行っていきたい。